

3-14. NPO 法人あとう観光協会（山口県山口市）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

阿東地区は、あとうスロー・ツーリズム推進協議会を立ち上げ農業体験、農家民泊をスタートさせている。エコツーリズムについては、その言葉を知る住民も少ないような状況である。

蔵目喜の桜郷銅山・静御前墓所のボランティアによるガイド、高岳の登山道整備等、エコツーリズムに結びつく活動は行っている。高齢化が進みボランティアガイドの後継者づくりが必要である。



(2) アドバイザー派遣の概要

日 時	平成 24 年 11 月 27（火）～平成 24 年 11 月 29 日（木）
場 所	山口県山口市阿東（篠生地区、蔵目喜地区、徳佐地区、地福地区、嘉年地区）
ア ド バ イ ザ ー	地域振興コンサルタント 緒川 弘孝氏
参 加 者	阿東地域づくり協議会、あとうスロー・ツーリズム推進協議会、あとう観光協会 阿東特産品振興連絡協議会、あとう観光協会会員、常德寺整備委員会
スケジュール・方法	【1 日目】篠生地区視察、エコツーリズムについての講演会&意見交換会 【2 日目】蔵目喜地区視察、徳佐地区視察、地福地区視察 【3 日目】嘉年地区視察、徳佐地区視察、 資源活用進行中の活動と今後の展開についてのアドバイス



(3) アドバイスの内容

●1 日目

- ・ 篠生地区視察では、スロー・ツーリズム事業の農家民泊受入先を訪問し話を伺う。初めての経験ではあったが、民泊された方と打ち解けてスムーズに進行ができた。今後機会があれば受入をしたいとの事である。晩御飯で食べたお米が美味しくて 5 キログラム入りを買われたそうである。うまくお金が落ちる仕組みづくりが必要とのアドバイスを受ける。家庭料理大集合では、52 品の料理が提供され、見て、食べて、語ることができた。多様な家庭料理の楽しみ方や農家の知恵についてアドバイスを受ける。
- ・ (エコツーリズムについての講演会&意見交換会)
「課題の打開策について」阿東を未来へ伝える、エコツーリズムの可能性について、新しい観光による地域振興の姿エコツーリズムとは何か？阿東でエコツーリズムをやるには、阿東の観光の状況、地域で宝探しをやるには？ということをテーマに講演いただいた。

●2 日目

- ・ 蔵目喜地区視察では、世話人より、桜郷銅山の歴史、国指定を受けた常德寺について話を伺い、現地の視察を行う。桜郷銅山は 1200 年の歴史を持ち奈良の大仏に使用されたとの言い伝えがある。銅についても何に使われているのかの説明が必要とのアドバイスを受ける。常德寺は雪舟が係ったとされている絵や国より研究者が調査に来山。
- ・ 12 月にあとう観光協会が主催で上記 2 箇所をめぐる「史跡めぐり」を開催するに当たり、日程として、まず歴史等の説明から始めた方が期待感も上がりスムーズに進行できるとのアドバイスを受ける。
- ・ 徳佐地区視察では、友清りんご園で話を伺う。創始者の友清氏が昭和 21 年当時の山口県内の気象データを集め、研究し、りんごの栽培を始めた。安心・安全の追求で、100 トン以上の製造・施肥をしている。1 日 1 個のりんごは医者要らずと言われる程健康作用がある。創園当時に植え付けたりんごの樹が今も 1000 個以上の実をつけている。こうしたことに付加価値を付けてエコにつながる方向を目指すようアドバイスを受ける。
- ・ 地福地区視察では、しもせりんご村で話を伺う。りんご狩りの他、ドッグランコースやペットと一緒に泊まれる民宿がある。クジャク、七面鳥等の鳥も飼育（防虫・除草効果）している。ピザハウス、バーベキューハウスも併設。特産品の開発にも力をいれているが、しもせりんご村ならではのオリジナル商品作りをした方が良いとのアドバイスを受ける。

●3 日目

- ・ 嘉年地区視察では、世話人に話を伺う。水出の泉、厄神舞、土居神楽、しりふり茶等伝統があり文化、行事をうまくつなげ、地域の宝探し等、点から線につなげるようアドバイスを受ける。
- ・ 徳佐地区視察では、船平山に関して世話人に話を伺う。スキー場でもあるこの地を手入れしてゆうすげの群生地となった。7 月にはゆうすげ祭りを開催。ターゲットゴルフも行っている。冬季には、雪祭りを開催し手作りスキー（たーたー）を製作し滑る。もっと PR して船平山地域が盛り上がり、地産地消につながるアドバイスを受ける。
- ・ 静御前墓所、徳佐八幡宮、願成就温泉、高岳について世話人に話を伺う。静御前墓所、徳佐八幡宮は歴史的にみても非常に価値がある。静御前の掛け軸があるが保存状態が良くないので補修し、来春完成する阿東交流センターに常設した方が良いとのアドバイスを受ける。願成就温泉について静御前銅像等の PR の強化、高岳についても登山道整備をしながらの PR について発信していくようアドバイスを受ける。

(4) アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

- ・ 緒川氏の講演、意見交換、現地視察での意見聴取等を受け、参加者、関係者、事務局を含め改めてエコツーリズムの必要性を感じた。

●今後の期待される効果

- ・ 阿東地域には、まだまだ良いところがたくさんある。一つの基準ではなくオンリーワンを。阿東の強みとして外から帰った人が携わっている。お客様目線の客商売が身についている。あとう観光協会が指令塔になり、交通整理をして適材適所にあてはめていくことにより、相乗効果が期待できる。



(5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

●参考となった事項

- ・ 緒川氏の講演内、マオリツアー、ワイボウムの森を巡るナイトツアー、カイコウラの「旅人の木」で旅行者に木を植えてもらう活動、キルギスタン・コチスル市、御蔵島・イルカウォッチング船では、人口 300 人に対し年間 1 万人が訪れる。観光局の手づくりマップ等。

●その他感想

- ・ エコツーリズムは、「地域の人々の暮らしを守る」「自然を守る」「自然を楽しむ」この 3 要素が大事であり、阿東地域においても自然と文化を守り、伝える人を育てることが必要である。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

地域振興コンサルタント 緒川 弘孝 氏

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状

- ・ 山口市阿東地域は、昨年度、「あとうスロー・ツーリズム推進協議会」を設立し、農業体験や民泊等のグリーン・ツーリズムを試験的に始めたところであり、エコツーリズムについては、まだその言葉を知る住民の方も少ない状況である。ただし、桜郷銅山周辺や静御前の墓等のボランティアによるガイドツアーや高岳山の登山道整備等、エコツーリズムに結びつく取組は始まっている。
- ・ 後述するようにエコツーリズムの素材はたくさんあるが、ガイドやインストラクターの担い手不足が大きな課題である。人口そのものが大きく減少していく中で、現在、ガイドをされている方は高齢者が中心であり、地域の歴史や文化に詳しい後継者が見当たらないと口にされていた。

●アドバイス（講義等）の概要

（講演・意見交換会内容）

- ・ 初日の講演・意見交換会では、日本や世界のエコツアーの事例を紹介しつつ、エコツーリズムとは何かを解説するとともに、まずエコツーリズムを自分で体験しないことには、お客様に提供する側になることはできないと強調し、阿東の周辺でのエコツアーを自ら体験することを提案した。
- ・ エコツーリズムの三要素（観光、環境保全、地域振興）が、いずれも欠くことができないことを強調するとともに、エコツーリズムのノウハウから入るのではなく、エコツーリズムの目的と目標をしっかりと地域自らが設定して共有し、地域の限られた力を共通の方向に向かってまとめるべきだという、エコツーリズムの地域づくり初動にあたっての最重要ポイントを強調した。
- ・ 更に、地域が売りたいものではなく、エコツーリズムの三要素それぞれのお客様は誰かを考え、それぞれのお客様のニーズを考える“お客様目線”への発想の転換が必要であるとし、その考え方を示すとともに、具体的に阿東地域の地理的条件や観光データを分析して例示した。
- ・ エコツーリズムの地域づくりで最初に手がける具体的取組として、お宝マップとフェノロジーカレンダー（季節暦）の例も示し、地域の宝探しの方法の概要も説明した。
- ・ 講演の間、適宜、参加者の質問や意見をうかがうとともに、アンケートも実施して、更に意見を集めているため、今後、地域でのエコツーリズム推進の方向性を考える上で、活用してもらいたい。

（視察・ヒアリングを踏まえたアドバイス）

○民泊での“意外な宝”探し

- ・ 既に昨年から試行を始めたスロー・ツーリズム推進事業では、篠生地区で地域の家庭料理を持ち寄ったところ 52 品も集まり、大きな地域の魅力となりうる。料理のネーミングを工夫したり、民泊した家庭によって異なる多様な家庭料理が楽しめること等を、発信する際に活用できる。渋柿を干して作るだけでなくラップに包んで冷凍して作る等さまざまな農家の知恵や、近所の人と大人数で一つの大きなテーブルでワイワイと食事すること等も、マンション暮らしの都市住民では得がたい経験として民泊体験者に好評だったこともあり、こうした“意外な成功例”を探すことも重要なポイントである。

○農業とエコツーリズムの連携・相乗効果

- ・ 民泊体験者が食べた地元の米が美味しかったので、買って帰ったようである。この阿東米は、魚沼産を凌ぐとさえ言われる品質であり、遠方から買いに来る客もいるほどだが、阿東米だけでなく、阿東りんご、阿東和牛、長門峡なし等、多くの優れた全国区になり得る農産品があるにも関わらず、ブランド化が追いついていない。エコツーリズムで形成された地域のイメージが、そうした農産物のイメージを高め、良質な農産物を知る消費者が地域を訪れてエコツーリズムを体験する…、そうした相乗効果も大いに期待されるだけに、観光関係者と農業関係者が、エコツーリズムの意義と効果を認識・共有することも重要である。

○銅山のガイドツアーの面白化

- ・ 既にガイドツアーが実施されている蔵目喜地区の桜郷銅山は、産出した銅が奈良の大仏に使われたと伝わる等 1200 年の歴史を持つ。山間にひっそりと佇む集落の狭い場所に 5,000 人もの鉱夫が住まい、遊郭もあるほど賑わった場所として隔世の感がある様子や、採石場で地層が露出し、粘板岩と石灰岩の間に銅鉱石を含むマグマが流入した様子が、まるで断面図を見るかのように見学できる箇所があったり、精錬で溶かした岩が捨てられた場所では鍋の形の岩が転がったりしている。この地区では、「銅」「赤釜」「町」「蔵目喜」等、銅山や銅で栄えた当時の様子に因んだ地名が多い点も面白い。更に、この地区には雪舟が作庭に関わったと伝わる庭園跡もあり、雪舟の絵との類似点も見られる。
- ・ このように蔵目喜地区では、産業史等の歴史、地質、風景、芸術等さまざまな分野で興味深い素材が多いが、鉱山や地質に関しては、素人には分かり難い専門用語があったり、説明が難しいものもあるため、興味が一般の方の目線で、どのように分かりやすく、面白く提供できるかが課題である。例えば、銅そのものについても、一般に目に触れる機会が減っているため、現在は十円玉や電線の中に使われ、コンピュータやインターネットをはじめ電気を使う現代文明に欠かせないものであることや、東大寺の大仏から銅銭、鉄砲玉等にも使われ、中国との密貿易にも利用された歴史等、身近に感じる説明や、面白い裏話等も加えると良い。

○観光農園のエコツアー化

- ・ 長門峡と並ぶ阿東の観光資源である多くのりんご園は、その全国に誇れるリンゴの高い品質もあって、現在も人気を保っているが、阿東でのリンゴ生産の創業者の友清氏が、気温、霜、台風等の気象条件を主に考慮しながらリンゴの適地を探し、阿東の地を選んだストーリーや、コーヒー豆やオレンジジュースの搾りかすやもみ殻等を再利用した循環型農業への取組等は、自然を学び環境に配慮するエコツーリズムと親和性があるため、バックヤードの見学も含めたエコツアーの素材にもなり得る。

○祭りに関する宝探し

- ・ 嘉年地区の須賀社の祭りで舞われる「厄神舞」は、舞人が神懸りになる珍しい祭りとして知る人ぞ知る存在である。神事の際に飲む「しりふり茶」という特別なお茶も伝わる。また、嘉年地区には「土居神楽舞」という神楽も伝わっている。こうした祭りにまつわる行事や料理や習慣等で、魅力ある資源がまだまだ存在するかもしれない、お宝マップやフェノロジーカレンダー等を通じた地域の宝探しを行うことが望まれる。

○文化の保全と再興

- ・ 阿東には静御前の墓があり、江戸時代の有名画家・真龍によるとされる静御前の姿絵の掛軸が伝わっているため、適切な場所に展示して活用することが望ましい。ただし、その保全状態が良くないため、最適な保全方法を調査する必要がある。
- ・ 阿東に伝わる静御前の伝説の根拠となっているのは、阿東の徳佐八幡宮で全国でも最も早く雅楽の演奏が始

まったとされることによるが、その雅楽を演奏できる担い手が、現在は途絶えており、また雅楽の楽器等も伝わっていない。こうした伝説に関連する文化や行事・習慣等を、更に掘り起こして活用できるものがないか、宝探しを行うことがまず求められる。

○自然資源のエコツアー活用

- ・ 阿東で最大の観光地・長門峡は、年間 40 万人の観光客が訪れるにも関わらず、地域にお金が落ちる仕組みや、阿東の他の観光地・観光施設への客の流れが弱いことが課題である。スキー場がある十種ヶ峰や船平山では、夏季、登山マラソンやゆうすげ祭りが実施されているが、それ以外の時期の活用が課題となっている。
- ・ 現在、ボランティアによるガイドツアーやイベント等が実施されているが、自然観察やナイトツアー等も加えて強化するとともに、民泊も組み合わせる等地域のグリーン・ツーリズムと連携して、地域全体での滞在型につなげていくことが望ましい。
- ・ 高岳山では、ボランティアによる登山道整備が行われているが、地域を挙げて協力・参画できるよう、信越トレイル等も参考に気運の醸成がまず求められる。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

- ・ 阿東地域は、阿東りんご、長門峡なし、阿東米、阿東和牛等、全国的なブランドとなり得る特産品が多く、一定のファンを持ちながらも、それらが地域振興に十分に活かされてないというのが、最も強い印象である。それらは、“山口の北海道”と呼ばれる阿東地域の厳しくも豊かな自然に育まれていることから、それらの質の高い特産品の愛好者は、阿東の自然に関心を持つ可能性が高いし、りんご園等では堆肥づくり等で環境に配慮した農業に取り組み、エコツーリズムとの親和性は高い。全国的に農業や観光農園が低迷する傾向にある中、阿東地域でもその波を被りつつあるならば、地域ブランドの強化や農家の副収入の確保に、エコツーリズムが果たす役割は小さくないと言えるし、エコツーリズムが、訪れた人々に阿東の農産物の質の高さを知るきっかけにもなることは、口コミやネットで発信された個人的な情報が商品選択で重要視される時代にあっては、無視できないものとなるだろう。そのような観光と農業の相乗効果を演出するエコツーリズムの意義を、観光関係者と農業関係者がともに認識・共有し、地域全体でエコツーリズム推進の気運を形成することが、最初にして最大の重要なポイントであると感じた。
- ・ 現在、阿東地域では、さまざまなガイドツアーが試行されているが、ガイドの方々は高齢者が占める割合が非常に多く、後継者づくりが課題として挙げられている。そうした人材探しも、まずは地域全体でエコツーリズムの意義を認識・共有した上での気運醸成が前提となるであろう。
- ・ 阿東地域でも、人口減少・高齢化が深刻になりつつあるが、外からの移住者やUターン者が多いことは、非常に明るい材料である。あとう観光協会の理事長も若き移住者であり、地域づくりに意欲的な方々が多い。また観光農園が多い地域であるため、外のお客様の目線で考えられる方々も多く、地域側の目線だけの独善に陥る心配も少ない。そのような点から、私としては、エコツーリズム推進に必要な人材確保に関しては樂觀視している。
- ・ ただし、上記のような豊かな特産品や意欲的な人材の多さが、逆に地域としてのまとまりのなさにつながる可能性があり、エコツーリズムを始めた当初は盛り上がりつつも、その後、空中分解することは懸念される。また、一方で人材や予算は限られているため、バラバラの方向性で進めば、限られた力が更に分散してしまう。まずは、講演で述べたように、阿東でエコツーリズムを推進する目的と目標を明確に設定し、地域全体で認識・共有する機会をつくることを、エコツーリズム推進の第一歩として行ってもらいたい。それによって阿東は、全国のエコツーリズムの先進地となり得る力を秘めている。